

知られざるルートで辿る白谷ノ丸 1920m&黒岳 1988m

(報告) AKA

- ◎ 期日 : 2025年10月23日(木)
- ◎ メンバー: X(L)、Y、Z、AKA(SL)

暇に任せて2023年春号(第123号)をもって休刊となった白山書房「山の本」を第1号から読み進め1年半かけて漸く全巻読了した。気になった文章や山があればメモをとり次の山行計画の参考とし、春の沼田市・高戸谷山や夏の恐山・大尽山や縫道石山へと繋げたような次第。今回の白谷ノ丸も第96号の静山紀行に発表されたもので、著者Tさんは70代で山を一緒にした事はないが面識はあり、温和で品のいいオバちゃん《すてきな撓みを見下ろし、ふうーっと深呼吸、大きな青空と愛おしい緑のカーブ、大舞台に登場する役者のようにゆっくり歩く。満開ヤマツツジの大株が、緑の丘に点々と並ぶ。自然の息づかい、押し寄せる強い力、ファンファーレが聞こえてくるようだ・・・云々》こんな感性とは無縁でいつもガツガツ歩きガツナだけで観察力皆無の私はその名文に心惹かれた。小金沢連嶺のこの山域は03年12月、都岳連個人会員の忘年山行で大月からタクシーで大峠へ出て雁ヶ腹摺山へ登った事があるだけで、全然土地勘ないが、歩行時間3時間45分とあり、これ位なら自分でも大丈夫とその気になった。只、登山口から白谷ノ丸までの前半部は踏跡あっても標識どころか赤テープもないバリ山行になるらしいと聞き、ソロで踏み出す勇気なく久しぶりに信頼する仲間お三方に参加を促し賛同を得ることができた。

実にXさんとは22年6月の稲包山以来となり3年4ヶ月ぶり、Yさん、Zさんとは23年1月の大山以来2年9ヶ月ぶりの山行と随分と間が空いたものと流れた時間を想う。

22日は降雨あったが、翌日は天気回復に向かい晴れ間ありとの予報を信じて23日朝7時過ぎJR八王子駅前でXさんの車に拾ってもらう。雲が多くすっきりしないが、昨夜の雨は山では雪のハズ〈富士山の初冠雪期待出来そう〉と久しぶり4人そろって気分は前向き、車中、話ははずむ。

8:50大峠(1560m)到着。先行車3台あり、カメラ抱えた男性一人、ここは車で入れる富士山の撮影ポイント、上空を覆う雲と地上を隠す厚い雲海の間で初冠雪の富士山がすっぽりと収まり絶好のシャッターチャンスなのだが、生憎にも上空をのさばる雲で陰鬱な天気が恨めしいが、まずは初冠雪拝めただけでも良しとする。



石庭より初冠雪の富士山

峠から車道を丁度 20 分下った地点右手に 9.2 kmと書かれた黄色の標識があり、そこが取付き点だった。かつての林業用作業道の跡のようで、車止めの柱が立っていて分かり易く、入ってすぐ右手カラマツ林の中の尾根に取付いた。踏み跡を辿り次第に斜度を増す中で目ざとくハナイグチ 5 本収穫、私の大好きなキノコ、少し盛りが過ぎているが得した思いで、当方お花や紅葉に感動するよりいつだって「花より団子」という事で育ちが分る。

露払い役の X さん、Y さんは快調に先行していくが、こちらはきつい登りに早くも顎を出し、10 歩進んでは一呼吸、毎度の事ながら皆の足を引っ張っている。最初の目標地「茶臼・1750m」はピークと云うより、小広い台地のような場所、葉を落とした広葉樹林帯の中、白谷ノ丸と思しき山頂が望まれ気合を入れた。この先が T さんの「満開のヤマツツジの大株が・・・云々」の箇所、草原に向かって下り坂となり踏み跡を見失う。先行する 2 人は右手のほうに活路を見出しているが、足の遅いこちらは左手の方が良さそうと、少し離れ放れとなりここで隊はバラついた。草原から先、登るべき先は一つ、どこから取りついても良さそうだが、足元はノイバラやイラクサ、スズタケ等膝下までくる蜜藪で歩き難く、大雨の時に出来る水路のような溝を見つけて辿ったりとノロノロ、ここで Z さんの出番となる。なんせこの 10 年来、道迷いに敏感となり、皆に先んじていち早くスマホにヤママップ取入れ、常に研鑽に励んでいる Z さん「今はここだから少し右に寄りすぎ、左へいけば踏み跡あるはず」とスマホの画面で示してくれる。勘に頼って間違い起こした事がある私は有難い助言を受け〈バリ山行かくや〉と前へ前へと緩やかに歩みを進める。「茶臼」の先のこの一角だけ樹林帯が消えて草原となっているのはどうしてなのか不明だが、草原とその先の樹林帯にかけてが本日一番の難所だった。

やがて登り詰めた広々と開けた岩場となり、そこが通称「石庭」と呼ばれる富士山の展望台、枝ぶりの良い松を前面に据え大蔵高丸～ハマイバ丸の尾根を隔てて富士山という構図は写真愛好家には得難い撮影ポイントではないかと想像してみる。

昼食を済ませ 10 分ほどで白谷ノ丸頂上となり、さらに 10 分で黒岳となり明瞭な登山道の歩き易さと有難さをしみじみと噛みしめて車を止めた大峠へと下山した。初めての山で途中もたついた場面もあったが、距離的にも、時間的にも日帰り可能でなかなか良いコースだった。お付き合い頂いたご三方に感謝、有難う御座いました。様子が分かったので、いつかお花の時期にでも再訪したいものと思う。

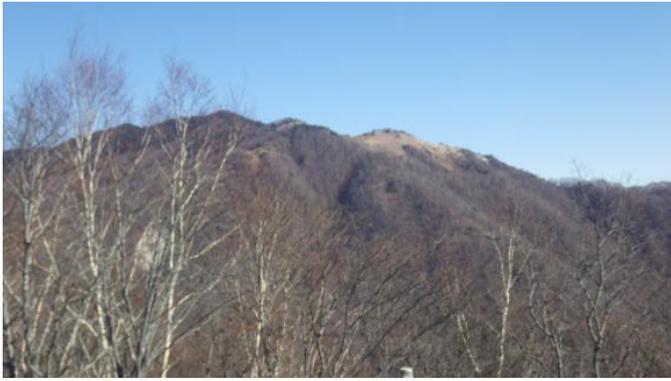
歩行時間は正味 5 時間、紀行文著者の T さんは 3 時間半だった由。見た目に反してかなりな健脚、矍鑠としてお元気なオハちゃまには脱帽です。



白谷ノ丸山頂記念 撮影 X さん



黒岳山頂記念 撮影 X さん



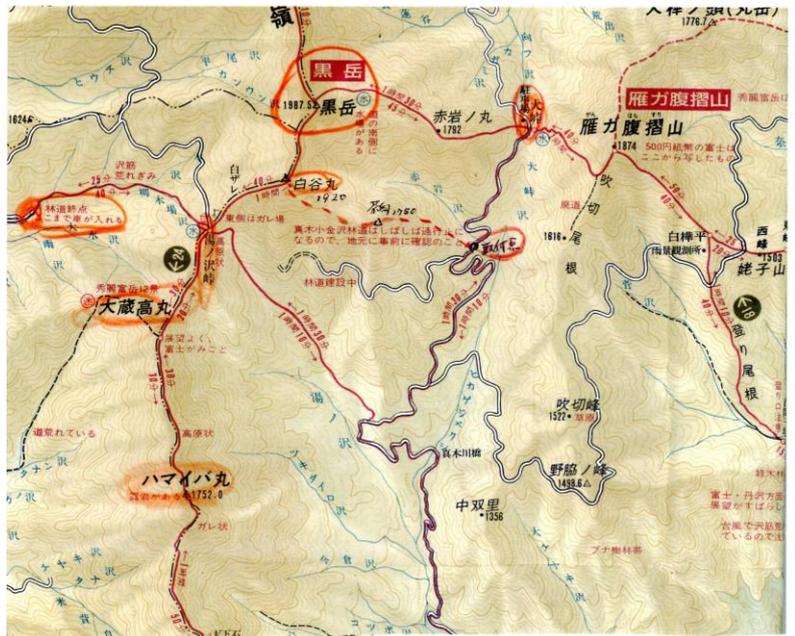
大蔵高丸から仰ぐ黒岳・白谷ノ丸全景



白谷ノ丸カラマツ林の取付き点

《コースタイム》

大峠 9:00 ⇒ 尾根取付き 9:20 ⇒
 茶臼 10:40 ⇒ 12:00 石庭 12:
 20 ⇒ 10:30 白谷ノ丸 10:35 ⇒
 13:00 黒岳 ⇒ 13:55 赤石ノ丸 ⇒
 14:25 大峠



白谷ノ丸ルート図。赤い点線がバリルート